

令和7年度 事業報告書

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

学校法人臼井学園

目 次

1. 法人の概要

- (1) 白井学園 建学の精神・教育目的・教育目標・教育方針について
- (2) 法人の沿革について
- (3) 設置する学校・学科について
- (4) 学校・学科等の入学定員、学生数について
- (5) 役員・評議員・教職員の人数について

2. 事業の概要

- (1) 各学科の主要資格合格率・就職率
- (2) 学生募集
- (3) 教育
- (4) 就職
- (5) 組織体制

3. 自己点検・評価の概要

4. 財務の概要

1. 法人の概要

(1) 白井学園 建学の精神・教育目的・教育目標・教育方針について

建学の精神

★

「一に人格 二に技術」「あきらめない あきらめさせない みんな可能生」

創設者であり、剣道範士であった白井久雄が、昭和22年2月8日、富山文化服装学院の開校式で「剣は心なり 心正からざれば 剣も正しからず 剣を学ばんと欲すればまず心を学ぶべし」と挨拶したなかで、専門技術教育においても、人として何よりも心を重視し、人間味豊かな人材を育成し、あきらめずに学生一人一人の可能性を引き出すという建学の精神が、現在に至っているものである。

教育目的

教育基本法及び学校教育法に従い、専修学校教育を行い、社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

教育目標

専門的知識・技術を修得するとともに、創造性に富む人材育成を図り、地域社会へ貢献できるスペシャリストを養成する。

教育方針

学生一人ひとりの「好き」という思いを「仕事」というかたちで実現するために、それぞれの個性を尊重し、人を思いやる心、感謝の心を育て、自らの良さや可能性に出会える環境づくりを行い、絶対にあきらめない、あきらめさせない強い精神力と努力する力を磨き育てる。

(2) 法人の沿革について

昭和22年(1947年)	富山文化服装学院創立
37年(1962年)	学校法人白井学園設立
40年(1965年)	富山県立雄峰高等学校白井学級(家政科)併設
42年(1967年)	新校舎完成(3号館)
49年(1974年)	学校法人白井学園 自治大臣表彰
51年(1976年)	専修学校法に基づく学校法人立専門学校として認可 富山文化服装専門学校創立 富山県で初めてパリコレクションを主催
52年(1977年)	イギリス「WEST DEAN COLLEGE」と姉妹校提携
54年(1979年)	富山県の私学で初めて教育功勞により富山県知事表彰
56年(1981年)	北陸ビジネス専門学校創立(1号館完成) 産業能率短期大学(通)併修校に指定
58年(1983年)	学校法人白井学園明るい選挙推進若人の会 自治大臣表彰
60年(1985年)	北陸ビジネス専門学校にコンピュータ学科新設
62年(1987年)	学校法人白井学園40周年記念式典挙行
63年(1988年)	北陸ビジネス専門学校が、通産省「情報化人材育成連携機関」 委嘱校、文部省「職業教育高度化開発研究」指定校となる。 産能短期大学(通)「教育交流校」となる
平成元年(1989年)	富山文化服装専門学校を「富山デザイン専門学校」へ改名
2年(1990年)	北陸ビジネス専門学校が、文部省「専修学校開放講座」委嘱 校となる
4年(1992年)	ウイーン特別州知事の招聘によりウイーンの舞踏会から世界 に向けて和紙ファッションを公開
5年(1993年)	北陸ビジネス専門学校とイタリアフィレンツェ市立経営科学専 門学校が姉妹校提携
6年(1994年)	北陸ビジネス専門学校に「医療秘書学科」を新設
9年(1997年)	学校法人白井学園、創立50周年記念式典挙行 北陸ビジネス専門学校に厚生大臣指定の介護福祉士養成施 設として「介護福祉学科」を新設(7号館) 北陸ビジネス専門学校を北陸ビジネス福祉専門学校と改名
10年(1998年)	北陸ビジネス福祉専門学校に「マルチメディア学科」を新設
12年(2000年)	福祉用具専門相談員指定講習会開催
13年(2001年)	新校舎2棟完成(2号館・8号館)
14年(2002年)	北陸ビジネス福祉専門学校に厚生労働大臣指定の精神保健

平成15年(2003年)	福祉士一般養成施設として「精神保健福祉学科」を新設 富山デザイン専門学校に厚生労働大臣指定の美容師養成施設として「ビューティーアート学科」を新設(6号館完成)
16年(2004年)	作品展示館「臼井千穂子記念館」完成
18年(2006年)	富山自動車整備専門学校開校 国土交通大臣指定「自動車整備士養成施設」となる(新校舎・実習棟完成)
26年(2014年)	厚生労働大臣指定「介護福祉士実務者研修講座」を開講
29年(2017年)	学校法人臼井学園創立70周年
令和 2年(2020年)	富山デザイン・ビューティー専門学校 ビューティーアート学科 を臼井美容専門学校 美容学科と改名
3年(2021年)	医療秘書学科新校舎完成

(3)設置する学校・学科について (令和7年5月1日現在)

・北陸ビジネス福祉専門学校

医療秘書学科	昼間2年制
介護福祉学科	昼間2年制
精神保健福祉学科	昼間1年制

・臼井美容専門学校

美容学科	昼間2年制
------	-------

・富山自動車整備専門学校

自動車整備学科	昼間2年制
---------	-------

(4) 学校・学科等の入学定員、学生数について(令和7年5月1日時点)

北陸ビジネス福祉専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
医療秘書学科	5名	20名	25.0%	13名	40名	32.5%
介護福祉学科	15名	20名	75.0%	29名	40名	72.5%
精神保健福祉学科	10名	20名	50.0%	10名	20名	50.0%
計	30名	60名	50.0%	52名	100名	52.0%

臼井美容専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
美容学科	20名	20名	100.0%	40名	40名	100.0%
計	20名	20名	100.0%	40名	40名	100.0%

富山自動車整備専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
自動車整備学科	23名	40名	57.5%	46名	80名	57.5%
計	23名	40名	57.5%	46名	80名	57.5%

学園全体

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
合 計	73名	120名	60.8%	138名	220名	62.7%

(5) 役員・評議員・教職員の人数について(令和7年5月1日現在)

・役員

理事 6名(うち、理事長1名、常勤理事2名)

監事 2名(うち、常勤監事0名)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	任期
理事長	白 井 千 威 子	非常勤	3年
理 事	萬 谷 正 子	非常勤	3年
理 事	田 中 雅 子	非常勤	3年
理 事	福 井 淳 夫	非常勤	3年
理 事	焼 田 健 二	常 勤	3年
理 事	山 本 慎 治	常 勤	3年
監 事	津 幡 正 夫	非常勤	3年
監 事	富 山 定 子	非常勤	3年

・評議員13名(うち、常勤評議員9名)

・教職員

北陸ビジネス福祉専門学校

専任教員9名、兼任教員36名、職員5名

白井美容専門学校

専任教員5名、兼任教員9名、職員5名

富山自動車整備専門学校

専任教員5名、兼任教員0名、職員5名

2. 事業の概要

年度当初に掲げた基本方針・重点目標のもと、計画を立案し、事業を実施した。学校法人臼井学園は、令和7年度、専修学校3校5学科を有する。学園全体の学生数は、令和7年5月1日時点で、138名在籍している。

(1) 各学科の主要資格合格率・就職率

各学科、主要目標資格合格率並びに就職率100%達成を目標に、教育活動を行った。(令和7年度卒業生実績)

学科	主要目標資格	合格率	就職率
美容学科	美容師(国)実技	100%	100%
	美容師(国)筆記	100%	
医療秘書学科	日本医師会認定医療秘書	100%	100%
介護福祉学科	介護福祉士(国)	93%	100%
精神保健福祉学科	精神保健福祉士(国)	100%	55.6%
自動車整備学科	2級自動車整備士(国)	100%	100%

(2) 学生募集

今年度の学生募集(令和7年度入学者数)は、法人全体で73名(前年比90.1%)であった。学科内訳では、美容学科は定員数を維持できているものの22名→20名、介護福祉学科は15名→15名、医療秘書学科は8名→5名(令和8年度以降募集停止)、精神保健福祉学科は12名→10名、自動車整備学科は24名→23名であった。

その一方、3校とも資料請求者数、来校者数は昨年対比で増加している。(臼井美容専門学校 資料請求者数148.9%、来校者数112.2%、北陸ビジネス福祉専門学校 資料請求者数174.5%、来校者数132.2%、富山自動車整備専門学校 資料請求者数201.4%、来校者数129.3%)

3校とも広報募集の基礎値となる部分は増加しているが、肝心の入学に繋がる歩留まり率(出願歩留まり率)が、下がっている。また、来校者における本校希望調査では、3校合わせて100名以上の本校希望となっていたが、着地は30名ほど減っている。

募集の観点で見た時に、資料請求者・来校者が純増し、来校後の出願歩留まり率が減少、来校後本校希望だった者も30名ほど減少している現状を考えると、来校から出願までの導線の弱さがあり、他校と比較した際に差が出ている部分があると捉える。前述の国家資格合格率等の実績を鑑みると、教育的な部分の差ではなく、第一印象となるハード面(校舎・施設設備等)の差があるのではないかと仮定される。母集団の獲得、ガイダンスからの来校誘導までが順調に進んでいることを考えると、その後の展開を強化すること(実績以外での他校との差別化)を具体的に考える必要がある。18歳市場が収縮していく中で、特に来校者は貴重な存在となり、いかに来校者へ第一印象から気持ちを高揚させるようなアプローチをかけられるかが大切となっている。

(3) 教育

本年度は、各学科の主要資格である国家資格等の合格率において4学科が100%を達成し、残る1学科についても93%と全国平均を大きく上回る高い水準を記録した。これは少人数教育及びクラス担任制を取りいれていることによる、学生個々に対するサポート体制を整えた結果と考える。また学園では、学生がより幅広い知識と技術を身につけられるように、医療秘書学科では医療事務・医療ク拉克専攻と調剤登録販売者専攻を、介護福祉学科では美容プロデュース専攻とヘルスケア専攻のコース制を、美容学科では、美容師コースと総合美容コースを導入し学科の強みとして定着してきている、さらに効果を上げられるようにコース制の内容を学生の意見等を取り入れ充実させていく。また、産学連携による各分野の専門的な新しい知識や新技術を取り入れた授業や演習、実習を企画し、各学科の学生が最先端を体験できる内容とすることで、これからの職業人に求められる技能・知識を学ぶ機会を提供できた。さらに第一線で活躍されているプロフェッショナルな方々からの成功体験や職業世界の今を知ることで、将来に対しての意識付けができたと考える。

(4) 就職

今年度3月末時点での就職内定率は、医療秘書学科・介護福祉学科・美容学科・自動車整備学科の4学科において100%であった。精神保健福祉学科においては、精神保健福祉士国家試験の受験を優先する傾向が強く、求人自体は有るのだが本人の希望に合う内容が少なく、就職率が55.6%に留まっている、今後の支援も継続していく。学園に届く求人においては、都市部からの求人が増加している、また各学科で目指す職業以外の他業種からの求人も昨年より多くみられる状況となっている。本学園では、担任を中心に就職指導を行っており、専攻の分野以外の職業に就職

することは稀であるが、各分野内でもさらに専門性の高い職種に細分化されているため、県内で就職先が限られ県外就職を希望するなど、学生個々の就職に対する要望も多く、希望の就職先が見つかりにくいケースもみられる状況となっている。就職サポートとして、就職セミナーや電話応対・スーツの着こなしなどについても講習会を実施し活動に対する不安を少なくするように配慮した。また履歴書の作成や面接の指導なども併せて実施し、面接指導では過去の面接内容などを参考にして繰り返し練習を実施した。就職の課題としては、ここ数年の傾向として委託訓練生など働いた経験のある学生の、就職に向けた意識が低く対応が求められる状況が増加している。

(5) 組織体制

学園内に、教務委員会・広報委員会・行事研修委員会の部門を設置し、各委員会内の業務について担当者を設け漏れの無い体制とした。また、経営会議・委員長会議・総務課会議を定期的実施することにより、各会議での決議事項を教職員間に全体会議にて共通の認識とすることを徹底した。

3. 自己点検・評価の概要

年度当初の事業計画に基づき、健全な学校運営、教育活動および個性の輝く学生支援のために、特に次の項目に重点を置いて、点検・評価項目の見直し等を行い、関係部署(各学科・各委員会・学園総務課)との連携を強化し随時行った。また、定期的に計画(P)・実行(D)・点検(C)・分析改善(A)を行った。

・教育環境(施設設備)の整備について

より良い教育環境となるように必要に応じて教育用機器・実習機材の導入を行った、特に富山自動車整備専門学校においては、自動車整備士技能検定規則の一部変更に伴い、教育用実習機器や車両診断機の充実を図った。また各校内の設備について、空調設備(エアコン)や、給排水設備(トイレなどの水回り)のメンテナンスを行い環境の維持に努めた。

・養成施設等の自己点検・評価について

養成施設指定の自己点検表等により全学科で実施し、改善項目については各学科長が改善内容・時期・今後の課題等を改善対策シートにまとめ、必要に応じて改善を行い、また今後の課題についても取り纏め教務委員長より、校長及び理事長に報告を行った。

- ・教職員の資質向上について

教職員のFDを自動車整備学科と精神保健福祉学科の2学科にておいて実施した。参加教職員の授業評価シートの内容をまとめ事後研修を行い授業での導入、展開、まとめ方などについて意見交換した。授業に取り入れたい点については、要項の計画通りに授業が進まなかったときの対処の仕方や、あえて質問し学生の興味を引き出す方法などが上がり、改善が必要な点については学生同士のグループワークを取り入れてはどうかなどの意見が上がるなど、各教員の授業展開に必要な情報交換を行う事が出来た。

- ・学生による学校評価調査について

在学生を対象に「学生評価アンケート」を実施し133名から回答があり、教育・施設設備・学生生活・要望の4項目を中心に行い得た結果から、学園が考えるべき内容について各委員会及び全体会議にて共通認識を図った、特に改善要望率の高い内容として設備等については優先度の高い物から順次対応するように対策を検討することとした。

- ・個人情報管理の徹底について

学園内で保有する個人情報について、ネットセキュリティの更新・施錠等の一括管理を徹底した。

- ・情報公開について

令和6年度の事業報告等をホームページで公開した。

- ・学校関係者評価の実施について

各校にて学校関係者評価委員会を開催し、各専門分野の業界や企業・関係団体、卒業生の方々から教育活動や学校運営等に反映すべき貴重な意見・助言をいただいた。また、その内容結果について、学校関係者評価報告書として公表した。

*令和7年度自己点検・評価報告書、別添を参照とする。

今後において、教育活動・教育環境のさらなる充実を図るため、社会のニーズを的確に認識した将来構想(中期計画・長期計画)を計画し、組織が有効に機能するよう取組みの改善を行い、より健全な学校運営に推進することが必要である。

4. 財務の概要

質の高い専門学校教育を継続するためには、経営基盤の安定が不可欠であり、早期に自らの経営上の課題等を把握し、経営状況の分析を適切に行った上で、自ら

の進むべき方向性の検討・判断材料としたい。

下記詳細については、別添を参照とする。

・財務諸表について

事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書

以上